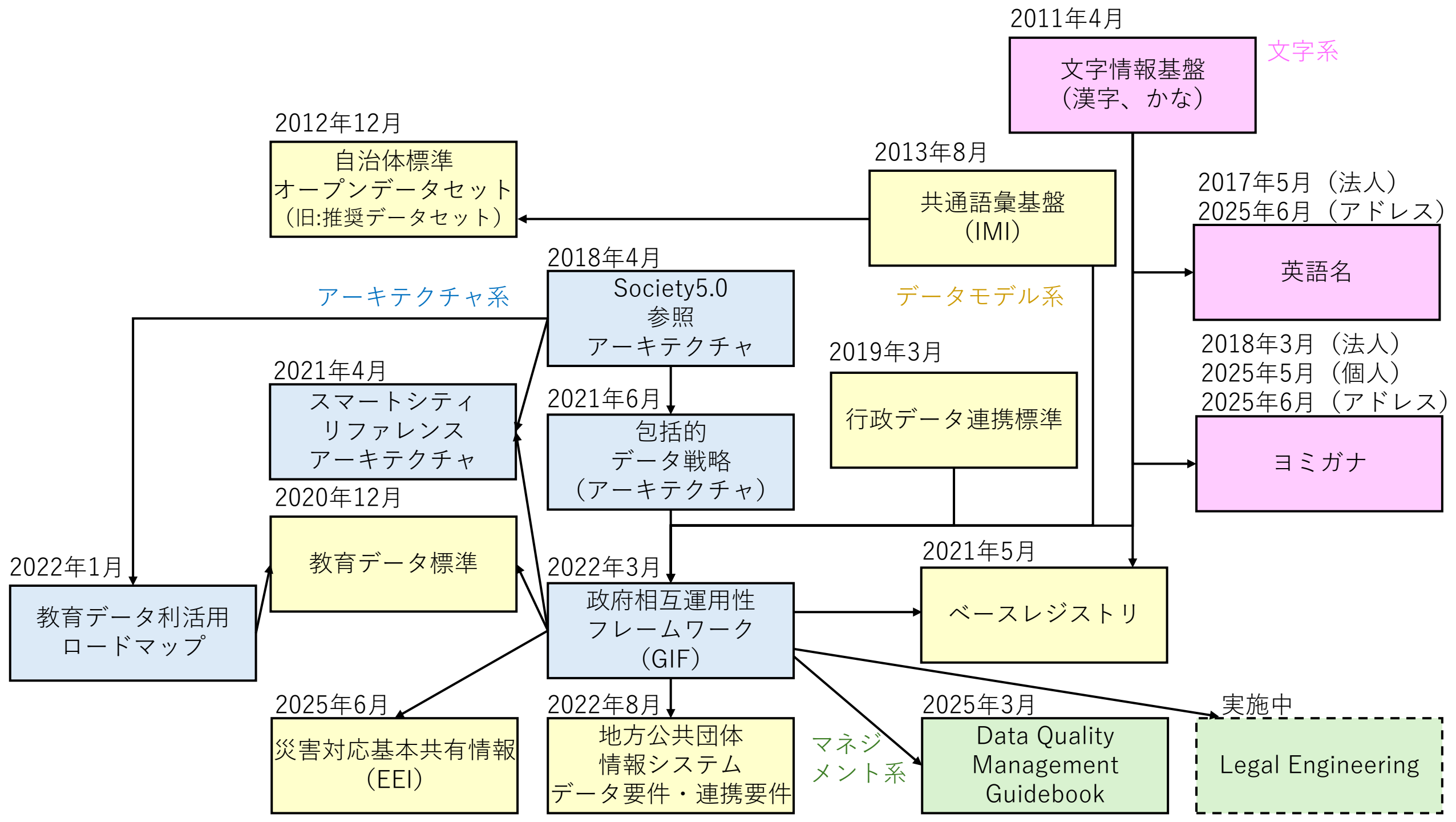


# デジタル基盤整備に関する最近のIPAの取組

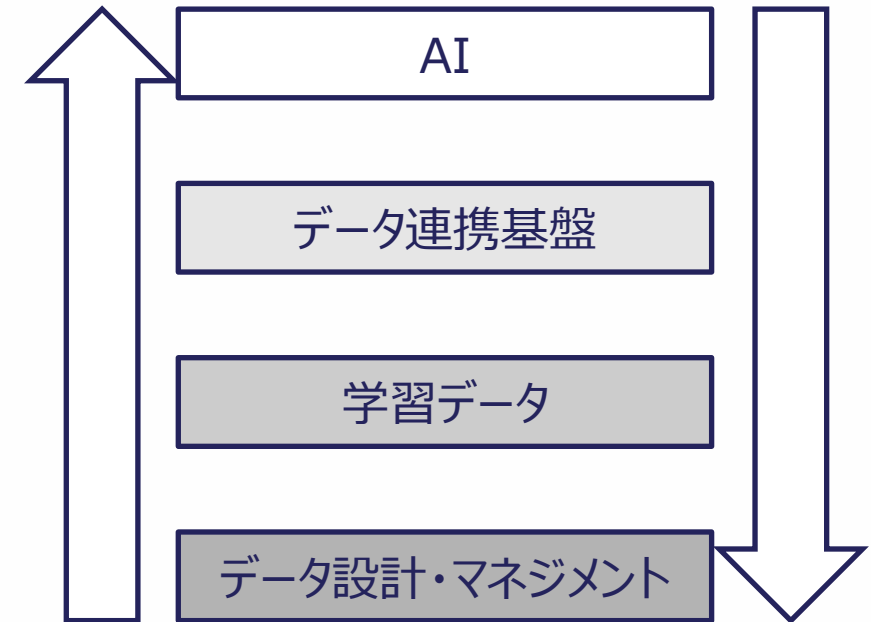
2026年03月23日

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）



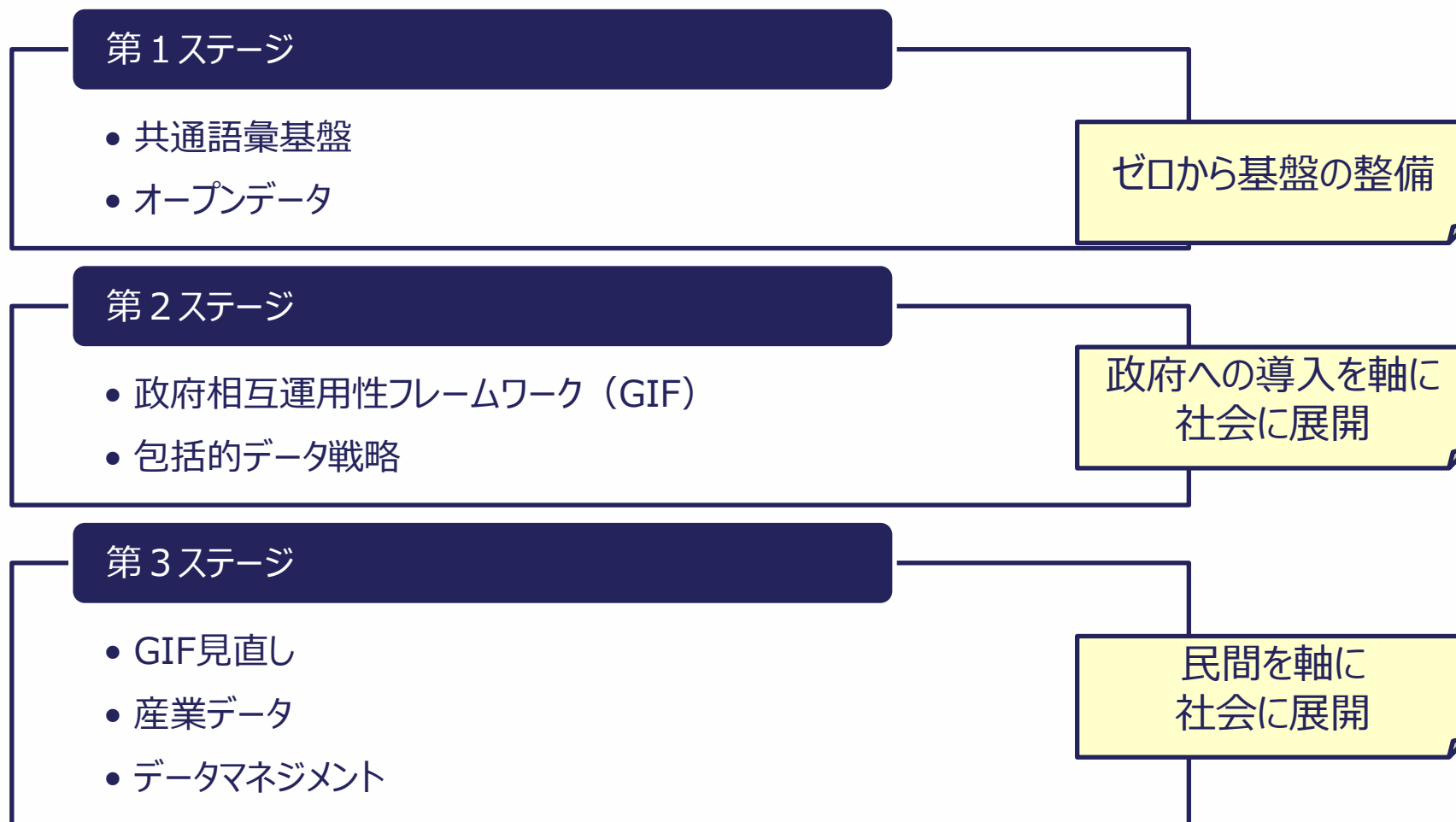
# ボトムアップからトップダウンアプローチへ

- ◆ 従来、データ設計の基礎を整え中長期的に社会の高度化と効率化を目指していた。
- ◆ AIの普及により、AIのためのデータ連携基盤や学習データの整備への要望が高まり、データの領域にフォーカスが当たってきた。
- ◆ 長年のデータの取組に、社会が追い付いてきた。



# データ環境整備の第3ステージ

- ◆ IPAのデータ環境整備も大きな転換期に入った。



- ◆ これまでの環境整備で着実に成果は出ているが、エビデンスが不足
  - ベースレジストリの整備（アドレス、法人（予定））
  - 教育データ標準
  - 政府システムでのコアデータパーツの導入
  
- ◆ フィードバックの仕組みが必要

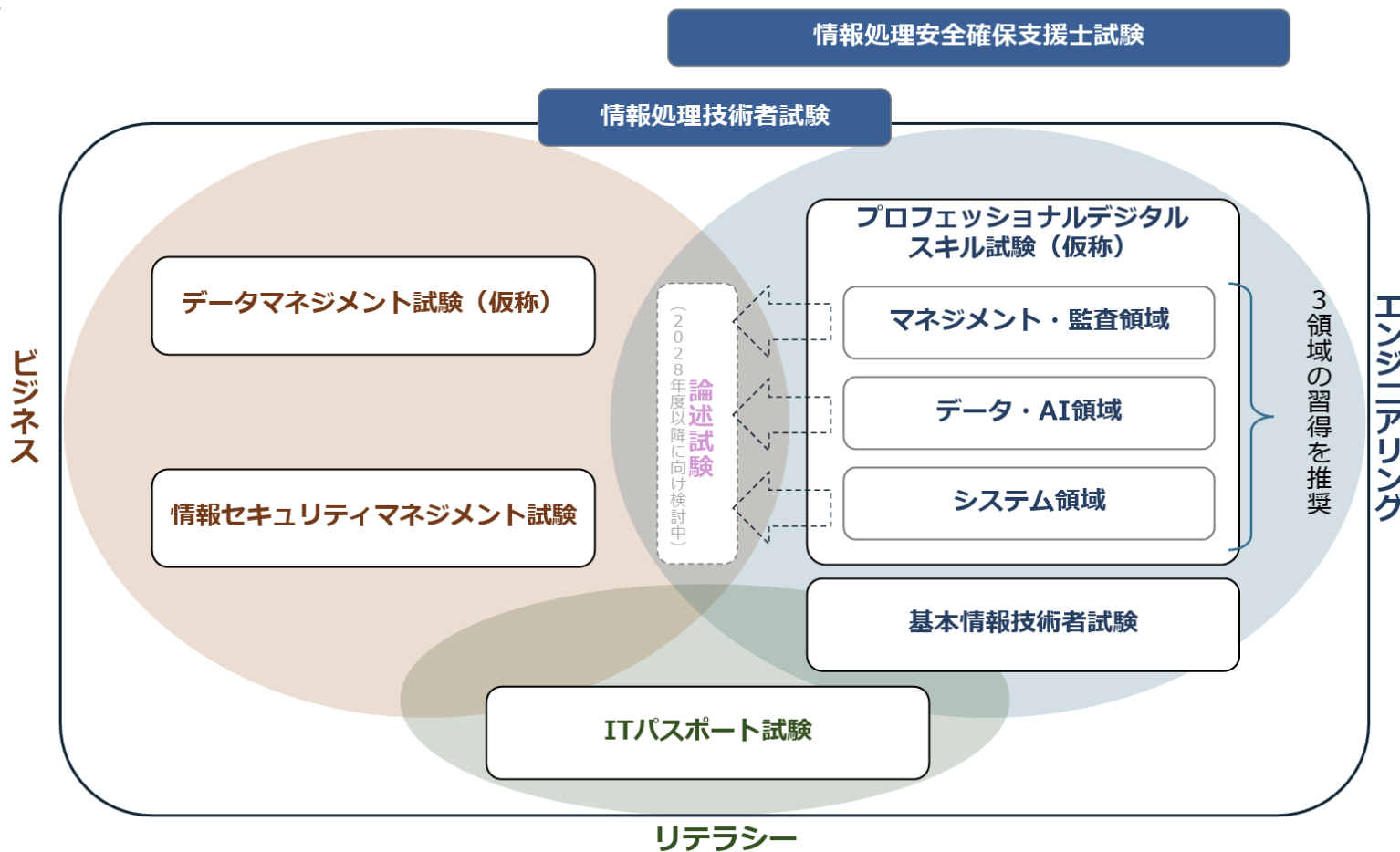
# プラットフォームへの取組

- ◆ データスペースガイドブックの改定
  - AIへの対応等
- ◆ デジタルエコシステム官民協議会の設立
  - ユースケースの創出
- ◆ デジタル事例データベースの運用
  - GIF 事例データモデルを活用

# データマネジメントの推進

- ◆ 情報処理技術者試験を見直し
  - データに関する試験を強化
- ◆ 2027年度試験から実施予定

## 情報処理技術者試験の見直しイメージ（検討案）

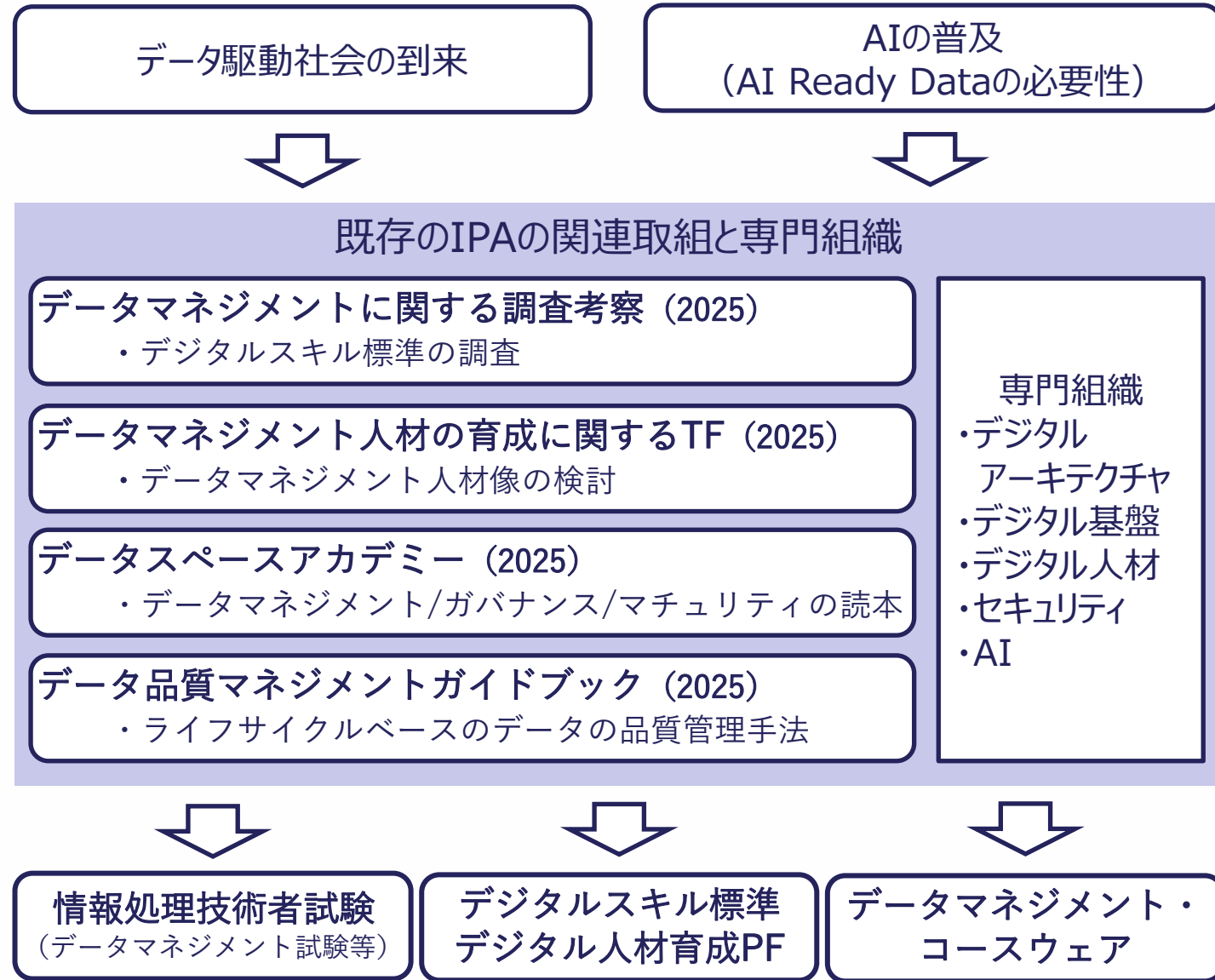


# データマネジメントのコースウェア開発



- ◆ データ駆動社会の到来やAIの普及に伴いデータの重要性が高まっている。
- ◆ イノベーションのためのデータを提供し、データに基づく安全、安心な社会を実現するために、資産であり、プロダクトであるデータのマネジメントが重要になる。
- ◆ また、データはグローバルに連携するという視点も重要となる。

⇒ 世界最先端のデータマネジメントチームと人材チームが連携し、コースウェアを開発する。



# データ品質管理ガイドブックの改定と導入支援

- ◆ データマネジメントの中核的取組としてデータ品質を強化

**Data Quality Management Guidebook**  
– Maximize the value of data and Artificial Intelligence –

**AISI** Japan  
AI Safety  
Institute

**IPA** Information-technology  
Promotion  
Agency, Japan  
Digital Infrastructure Center

AI Safety Institute  
事業実証WG  
データ品質SWG

- 適用検証
- ツールの検討

- ◆ ソフトウェア技術の法令・ルール分野への適用について検討
  - 要件定義
  - モデリング & シミュレーション
  - 法律から適合性評価への展開
    - マネジメント標準とプロダクト標準の協調
- ◆ 法律用語のデータ辞書化、構造化（法令自体のデータ化）については先行事例調査を実施

- ◆ スマートシティ・リファレンス・アーキテクチャ5.0
  - 共通識別子や データモデルの活用、モデル規約の利用など、実装に向けた具体的な指針を盛り込んだ大規模改定。

## 目次

- 1 適用範囲
- 2 用語及び定義
- 3 人間中心社会の構造要件
- 4 都市状態モデルの原理
- 5 参照構造モデル
- 6 都市状態統合のための論理要件
- 7 都市 OS
- 8 共通アーキテクチャ方針におけるID設計・データモデル指針
- 9 都市OSの実装・運用・展開に関する考え方
- 10 分野別ユースケースにおける都市OS活用
- 11 地理空間データ連携基盤
- 12 都市データ参照モデル 概念設計

IPA